

## 学級懇談会

学級懇談会は、保護者との連携協力を図るうえで重要な機会です。保護者の理解を得て、協力体制をつくるためには、双方向の意見交換に努めることが大切です。

ここでは、聞き取り調査をもとに学級懇談会を6つのポイントに分け、それぞれに対応したスキルを紹介しています。また、次ページから聞き取りしたスキルの具体例を見ることができるようになっています。

### ポイントとスキル

ポイント	スキル
■ テーマ設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 事前の情報収集と打合せをする</li><li>○ アンケート等を活用する</li><li>○ 内容の事前予告を工夫する</li></ul>
■ 懇談会の形式	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 子どもの姿を中心に話す</li><li>○ 保護者の話を促す</li></ul>
■ 雰囲気づくりの工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>○ エンカウンター等の手法を用いる</li><li>○ クイズやゲームを行う</li></ul>
■ 進め方の留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 教師の進め方を工夫する</li><li>○ 役員さんに進行してもらう</li><li>○ 機器・資料等を活用する</li></ul>
■ 教師の姿勢・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 言葉遣い、表情等に留意する</li><li>○ 教師の姿勢を示す</li></ul>
■ その他	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 行事・レクリエーション等を行う</li></ul>

## 学級懇談会

### スキルの具体例

#### ■ テーマ設定の工夫

##### ◆事前の情報収集と打合せをする

- ・保護者が参加したいというテーマを常に考える。テーマの情報収集については、地域の話題、教育の動向、子どもの発達段階、子どもの興味・関心などから、保護者がどのような内容に興味・関心があるのか等をつかんでおくことが大切である。 (小 40 女)
- ・事前に記録ノートや日記などを見直して、学校での学習や生活での子どもが変わったところ(伸びたところ)を中心に話すようにする。 (小 50 女)

##### ◆アンケート等を活用する

- ・事前にアンケートをとり、アンケートの中身から保護者のニーズを把握して学級懇談会のテーマとしている。 (小 30 男)
- ・アンケートなどを通して情報を収集し、保護者の興味ある話題をテーマとする。その具体的な内容で、例えば、「早寝・早起き・朝ご飯」を話すとき、子どもの成長にどれほどよいか資料を活用して科学的な根拠を示しながら話す。 (小 40 男)

##### ◆内容の事前予告を工夫する

- ・話す内容を事前に伝えたり、「行事の様子をVTRで流しますからお楽しみに」などの告知したりすることによって、気軽に参加できる雰囲気づくりをしている。(小 50 女)
- ・学級懇談会当日の話題については、1ヶ月ぐらい前から保護者に対して学級通信や連絡帳等を通じて投げかけをする。また、保護者の中から何人かの発言者も決めておく。(中 50 男、中 50 女)

## ■ 懇談会の形式

### ◆子どもの姿を中心に話す

- ・子どものよいところ（頑張っているところ）を1人ずつ言ってもらい、それに対して教師も学校での様子をコメントする。みんなの前でお互いが発言することで、学級の様子を共有化する時間になっている。 (小 50 女)
- ・子どもたちの家庭での様子（学習時間、小遣い等）をできるだけ話していただき、共通の話題にしてみんなで意見交換をしている。特に気になるようなこと（例：メールの問題）については、授業等でも取り上げるようにしている。 (小 30 男)
- ・教室や廊下の掲示物をチェックして懇談会ごとに同じ物にならないようにする。子どもの作品等には、一人一人のよさを評価し、懇談会のときにそのよさを伝える。 (小 40 女)

### ◆保護者の話を促す

- ・保護者が学校に対する構えを崩さないと本音の話ができない。そのために教師が工夫しなければならない。グループワークなどを2回繰り返して行くと3回目は垣根がなくなって本音で話し合うことができるようになる。 (中 50 男)
- ・学級通信などの内容を材料に話をし、保護者に子どものことを30秒といった時間を決めて、一人一人の保護者が発言する時間を確保するように努める。もちろん、特定の保護者のみが発言することのないように進行する。 (小 30 女、中 30 男)
- ・保護者の悩みや質問を通して、みんなと一緒に考えていくように努めている。保護者同士の意見交換を大切にして、保護者同士のつながりができるようにしている。 (小 40 女)

## ■ 雰囲気づくりの工夫

### ◆エンカウンター等の手法を用いる

- ・保護者同士のつながりをねらいとして、懇談会の最初にはショートエンカウンターを取り入れた。また、子どもが体験済みのピア・サポート等を保護者にしてもらった。  
(小 30 男)
- ・まず、アイスブレイキングなどを行い、リラックスした雰囲気の中、懇談会の内容に入った。懇談会では、テーマに沿って5名ずつ程度でグループをつくり、ディスカッションをしてもらい、悩みなどを出してもらった。  
(小 30 女、高 40 女)
- ・懇談会の始めに、教師の寸劇を取り入れ、わかりやすい内容を提示した。具体的に例を挙げながら説明することで、発言が多くなった。  
(中 50 男)

### ◆クイズやゲームを行う

- ・〇×クイズなどを取り入れた。その際には、クイズの問題をつくるときに、子どもにアンケートをとった内容にした。その結果、保護者とのコミュニケーションをとることができるようになった。  
(小 30 女、中 50 男)
- ・保護者同士の自他理解や信頼関係づくりのために、ゲームを実施した。事前に子どもたちを対象に実施し、その様子を学級通信で保護者に伝えて関心をもっていただいた。  
(小 50 女)

## ■ 進め方の留意点

### ◆教師の進め方を工夫する

- ・保護者に話してもらおうが、はじめに「何か意見などありませんか」では、なかなか保護者の考えがでない。よく知っている保護者を指名して話してもらい、きっかけを作る。そして、次々に発言してもらえようにする。 (中 40 男)
- ・子どものよいところを書いてもらっておく。そして、「誰でしょう」などと問い、保護者同士が話しやすい内容にする。 (小 30 女)
- ・子ども一人一人の近況や成長した姿を紹介することから話す。そして、子どもたちの課題を具体的に話す。そのために、日頃から子どもとかかわった内容をメモしておき、いつも記録することを心がけている。また、保護者に子どもの「ほめ方」を話すこともある。 (小 30 女、中 30 男)
- ・教師からは、学習指導の工夫点や学習中での様子、子どものがんばりなどを話すようにする。学校での学習や生活での子どもが伸びたところを中心に具体的な場面などを話す。 (小 40 男、小 50 女)
- ・保護者全員に子ども一人一人の近況報告(例：子どもの興味や関心、こんな話をした等)をしている。日頃から子どもとの関わりについては、メモを活用し記録するようにしている。 (中 30 男)
- ・入学当初の学級懇談会で、子どもをこう育てたいということを宣言する。また、「子どものためになることを探し、みんなですることができることを一つやってみましょう」という提案する。 (小 40 男、高 50 男)

### ◆役員さんに進行してもらおう

- ・懇談会は、役員さんに進行してもらおう。役員さんが進行していくのに不安があるときもあるので、事前に役員さんと連絡を取り合い、打ち合わせる。 (中 30 男)
- ・学級懇談会の時には、司会を役員さんに任せ、保護者同士で話をしてもらうようにしている。 (小 40 女)

### ◆機器・資料等を活用する

- ・プレゼンテーションソフトを使って、学校での様子を写真やビデオで紹介する。行事や学校生活の様子を伝えられるような内容にする。 (小 30 女、小 40 男)
- ・授業参観での授業設計のねらいや活動の流れを中心にプリントにして配付している。懇談会では、まずその話題から話す。 (中 40 男)

## ■ 教師の姿勢・態度

### ◆言葉遣い、表情等に留意する

- ・第一印象を与える要因として、しゃべり方（自信をもった話し方）、生徒を伸ばそうとする態度、表現、言葉遣いが大切である。おどおどしていたり質問されても答えられないなどは保護者の信頼を失う。 （高 40 男）
- ・教師の表情が懇談会の雰囲気をよくする。ひたすら笑顔を心がける。また、緊張をほぐすために時々意図的に笑いをとることもある。 （小 40 男）

### ◆教師の姿勢を示す

- ・担任が自分の子育てのことと重ねて話をする。特に失敗談を話すことで、お互いに打ち解けて保護者も話しやすくなる。 （小 40 女、小 50 女）
- ・はじめの懇談では、保護者に、こんな子どもに、こんな学級にという方針を具体的に話す。そして、「私が担任として責任をもって指導します」「我が子のようにほめ、我が子のように叱る」など、子どもへのかかわり方の基本を話す。 （小 40 女、小 50 女）
- ・短期的な目標を子どもの姿を通して具体的に説明する。子どもの課題については、家でも協力していただくように話す。共に子どもを見守っていくというスタンスを崩さないことが大切である。 （小 40 男）

## ■ その他

### ◆行事・レクリエーション等を行う

- ・親子のふれあいなどでバーベキューをするなど保護者同士のつながりをつくる。また、クラス独自のレクリエーションや保護者ボランティアなども積極的に行う。 （小 40 男、小 40 女）
- ・学級ふれあい活動、相撲大会、日曜参観、地域ドッジボール大会など、父親の参加も多く保護者同士をつなぐ行事（地域での行事）に教師も積極的に参加する。 （小 40 女）